

## 牛 *Clostridium perfringens* 感染症の発生と直腸便

での評価 : 伊那家保 藤本洋平

牛 *Clostridium perfringens* (以下、CP) 感染症は牛の突然死を引き起こす重大な疾病である。令和4年8月と令和5年10月に管内酪農場にてCP感染症による突然死が発生した。当該牛の直腸便中から  $2.2 \times 10^6$  ~  $2.5 \times 10^7$  CFU/g のCPが確認された。しかし、牛CP感染症では小腸内容物中CP数の指標は存在するが、直腸便中におけるCP数の指標は存在しない。そこで、令和5年10月にCP感染症の発生があった農場1戸および発生の無い農場6戸において、健常成牛の直腸便40検体を用いCPの分離培養試験を実施し、CP数を比較した。CPの分離培養試験の結果、発生のあった農場においてのみCPが分離された。また、CPが分離された農場の牛20頭について抗体検査を実施したところ、抗体価は  $400 \sim 3200 \leq$  であり、農場全体がCPに汚染されていることが確認された。直腸便中CP生菌数を評価することは、CP感染症発症リスクを予測するのに有効である可能性が示唆された。